

3 自立と社会参加を目指して

授業実践を通して、広島市教育委員会特別支援教育課、及び広島市教育センターの主任指導主事、指導主事の先生方より、多くの御示唆をいただいた。その中で、児童生徒の「わかった」、「できた」を自信や意欲につなげ、更に次の活動へとつなげていくためには、評価規準を明確にすること、教育的瞬間を捉えて肯定的評価を即時に行うことなど、児童生徒が達成感を実感できる評価を大切に授業実践を行う必要があることを学ぶことができた。

また、兵庫教育大学大学院教授井澤信三先生からは、児童生徒が「自分から動いている」を高めていくためには、自己選択や自己決定、自分自身で気付き、見直すことのできる力を高めていくこと、活動を楽しみ、達成感や意義を感じられることが大切な視点であると御示唆をいただいた。そのためには、児童生徒へのフィードバックを充実させ、活動の意味や意義を伝え、できたことの意味付けを十分にすることが必要であり、「できた」後の対応も環境づくりとして意識して、取り組むとよいという御助言をいただいた。

今年度、多くの実践の中で、児童生徒の「わかる」、「できる」を大切に授業づくりを行ってきた。環境づくりに視点を当て、児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用や効果的な配置等の物理的支援環境、教師や児童生徒の役割を整理して人的支援環境を見直すことで、児童生徒が主体的に活動する場面が数多く見られるようになってきた。自立と社会参加を目指すためには、「わかった」、「できた」と児童生徒が実感でき、自信や意欲、達成感を感じられることが大切であり、更なる主体的な活動へとつながっていく要因となる。「わかる」、「できる」行動を引き出すことのみならず、その行動を次の活動へとつなげていくための環境づくりを整理、工夫していくことも、今後もおこななければならない大切な視点である。

